

春



秋

能が描く四季折々の景色

# ほおずき能

第十九回定例公演 公益社団法人能楽協会九州支部

夏



©公益社団法人能楽協会



冬

大濠公園能楽堂

平成三十年八月二十六日(日)  
午後一時始(正午開場)

- |      |      |      |       |
|------|------|------|-------|
| 能    | 狂言   | 舞囃子  | 舞囃子   |
| 鵜飼   | 土筆   | 巴    | 龍田    |
|      |      |      | 神楽留   |
| 今村一夫 | 篠原太一 | 木月晶子 | 多久島利之 |

## 九州在住の能楽師による能・狂言をみてみませんか?

公益社団法人能楽協会九州支部は平成十一年に設立されました。  
現在、シテ方五流、ワキ方二流、囃子方七流、狂言方二流、  
約八十名の能楽師が所属しています。  
今回の定例公演では、【四季】をテーマに能の曲を集めました。  
四季折々の能の景色をお楽しみください。

**入場料** 全席自由 5,000円 (当日6,000円)  
学 生 2,000円 (当日2,500円)

- 入場券販売所**
- 大濠公園能楽堂  
福岡市中央区大濠公園1-5 ☎092-715-2155
  - チケットぴあ  
0570-02-9999 【Pコード486-816】  
(セブンイレブン、サークルK、サンクスでもご購入できます)
  - ローソンチケット  
0570-084-008 【Lコード83110】  
(ローソン、ミニストップのLoppiでもご購入できます)



- 大濠公園能楽堂までのアクセス
- 地下鉄でお越しのお客様  
【S-1】大濠公園駅【S-2】唐人町駅から徒歩7分
  - 西鉄バスでお越しのお客様  
【B-1】大濠公園バス停から徒歩3分  
【B-2】黒門バス停から徒歩3分  
【B-3】大濠公園南バス停から徒歩15分~20分
  - お車でお越しのお客様  
【C-1】大濠公園有料駐車場

大濠公園能楽堂は専用駐車場はございません。  
できる限り公共交通機関でお越しください。

**予 告** **クリスマス能**  
2018年12月23日(日)  
能 花月(宝生流) 他 狂言、舞囃子



©公益社団法人能楽協会

主催 / 公益社団法人能楽協会九州支部  
後援 / 福岡県、福岡県教育委員会、福岡市



# ほおずき能

平成三十年八月二十六日(日)  
午後一時始(正午開場)  
大濠公園能楽堂

## 秋

### 龍田

神楽留

龍田姫神 多久島 利之

大鼓 白坂 信行 太鼓 田中 達  
小鼓 古田 寛二郎 笛 森田 徳和

地謡 井内 政徳 久保 誠一郎  
今村 嘉伸

地謡 山口 剛一郎 今村 一夫

〔解説〕 能が描く四季折々の景色

舞囃子(観世流)

## 冬

### 巴

巴御前 木月 晶子

大鼓 白坂 信行 小鼓 幸正 佳 森田 徳和

地謡 松田 美栄子 菊本 美貴  
今村 宮子

地謡 多久島 法子 菊本 澄代

仕舞(宝生流)

## 春

### 雲雀山

乳母侍従

山岡 晴美

地謡 田中 トシエ

久貫 弘能 三澤 栄子

仕舞(観世流)

## 夏

### 杜若

杜若の精

鷹尾 祥史

地謡 川副 憲一

鷹尾 章弘 鷹尾 維教 今村 嘉太郎

連吟(喜多流)

## 秋

### 玉鬘

角 粟谷 充雄

渡辺 康喜

仕舞(金春流)

## 冬

### 葛城

葛城の神

東 軍三

地謡 田中 寿男

櫻間 右陣 北山 春彦

## 春

### 土筆

野遊山人 篠原 太一

野遊山人 中島 清幸

後見 川辺 宏貴

〔解説〕 能「鶉飼」について

〔休憩〕 憩

能(観世流)

## 夏

### 鶉飼

前老人 後闇魔大王 今村 一夫

旅僧 御厨 誠吾

従者 坂苗 融

大鼓 白坂 保行 太鼓 田中 達  
小鼓 飯富 章宏 笛 浦 政徳

里人 吉住 講

後見 多久島 法子 今村 嘉伸

地謡

井内 政徳 久保 誠一郎  
川副 憲一 鷹尾 維教  
今村 嘉太郎 森本 哲郎  
山口 剛一郎 鷹尾 章弘

## 《解説》

◇舞囃子 龍田(たつた)  
紅葉の盛りの中、神殿より龍田姫神が現れ、夜神楽を舞う。

◇舞囃子 巴(ともえ)  
巴御前が、木曾義仲が自害をする間、敵を長刀で追い散らし、時を稼いだ様子を見せる。

◇仕舞 雲雀山(ひばりやま)  
中将姫の乳母は、花や鳥に託して姫の境遇を物語る。

◇仕舞 杜若(かきつばた)  
杜若の精が伊勢物語の恋物語を舞う。

◇連吟 玉鬘(たまかざら)  
玉鬘の霊は、恋の迷いのせいで、死後も妄執の苦しみから抜け出せない身を物語る。

◇仕舞 葛城(かざらき)  
葛城の女神が大和舞を舞い、岩戸の中に姿を消す。

◇狂言 土筆(つくづくし)  
男が友人を誘って早春の野遊びに行った。土筆(つくづくし)が出てくるのを見つけ「土筆(つくづくし)の首しおれてぐんなり」と一首詠む。友人が和歌に「ぐんなり」はどうかと言つと、和歌の競い合いとなり、馬鹿にされた男が相撲を挑み、逆に打ち倒される。

◇能 鶉飼(うかい)  
二人の旅の僧が甲斐(山梨県)の石和川(いさわがわ)へ着くと、鶉使いの老人と出会う。僧の一人が以前接待を受けた宿の老人だった。老人は、自分は死んで地獄に落ちた者であると打ち明け、殺生禁断の場所での鶉飼をしたのが見つかり、川に沈めて殺されたと話す。そして、罪滅ぼしの為と言って、鶉飼をして見せるが、やがて闇の中へと消え去る。僧が小石に法華経を書き、吊うと、地獄の鬼が現れ、一宿の功德と法華経の力で、老人は成仏したと告げる。